

小学校ではまだ2年生ですが、日能研では今月から3年生の学習がスタートします。
まずは動画を見て学習する習慣を身につけましょう。

3年生の目標

- ・文章…難度の高い文章を読み慣れ、記述式の問題にも抵抗なく解答できるようになること。
- ・語句…さまざまな言葉にふれ、豊かな語彙を身につけること。

文章題では書かれている内容を大きくつかみましょ。判読の際、どのような点に気をつけて文章を読めば良いのかを動画で確認してください。動画の中で難しい言葉の説明をしたり、文章の内容を説明したりしています。その説明を見て、文章の読み方を身につけていくようにましょ。

語句の分野では、ことわざ、慣用句、四字熟語、漢字の知識、主語・述語などの文法事項など、幅広く学習していきます。ことわざ、慣用句、四字熟語を覚えるときには、似た意味の言葉や、反対の意味の言葉、また関連する言葉を合わせて覚えるようにすると、一気に語彙が増えます。漢字の知識や文法事項は動画での説明を聞いて、理解し、覚えるようにしてください。

毎回のテキストの構成

- ・練成問題
- ・語句
- ・復習問題
- ・ノート

答えはすべてテキストに書き込みましょ。ワクの中におさまるように大きな字でていねいに書いてください。

間違えた問題は赤できちんと直すことが大切です。そのとき、最初に書いた答えを消さないよう、解答欄の横に新たな答えを書くなど、自分がどのような間違いをしたのか、どのように直してマルとなったのかがはっきりとわかるようにましょ。

動画では、「練成問題」と「語句」の部分の解説を収めています。「復習問題」は家庭学習用の教材です。「ノート」の部分は自由に利用してください。

動画視聴時のお願い

保護者の方もお子様と一緒にご覧になることをおすすめいたします。記述問題のマルつけなど、お子様をご自分で判断できない場合もあると思います。また、お子様が学習習慣を身につけられるよう、「解く→直す」の流れの定着にご協力ください。

各回の構成は、練成問題の「導入」→「判読」→「設問の解説」、語句の「導入」→「設問の解説」です。動画は随時一時停止して視聴していただければと思います。

◆第1回 物語文①／ことわざ①

練成問題では物語文を学習します。この回では、物語を読むときの基本となる、「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」という場面をとらえる練習をします。

語句はことわざの学習をします。この回では、動物名の入ったことわざがたくさん出てきます。動物名の入ったことわざは入試でよく出題されますので、しっかり覚えるようにしてください。

◆第2回 物語文②／主語・述語

練成問題では物語文を学習します。前回同様、場面を意識して文章を読むようにしましょう。物語文に描かれている場面を頭の中で思いうかべながら読んでみましょう。

語句は主語・述語の学習をします。主語・述語を見つける問題では、初めに述語から探すようにするのがポイントです。動画の解説を見て、しっかり練習しましょう。

◆第3回 物語文③／部首①

練成問題では物語文を学習します。前回同様、場面をとらえる練習をします。今回は「場面分け」の問題が解けるようになることが目標になります。

語句は部首の学習をします。部首は7つに分類することができます。漢字辞典を使って、テキストに出てきたもの以外も調べるようにしましょう。

2月から前期の授業が始まります。第1回～第3回の授業で、整数の計算方法を学習します。その後、逆算、和差算や分配算、場合の数、少し複雑な整数の計算、平面図形、消去算やつるかめ算などへと続いていきます。各回の学習の目安は以下の通りです。

◆第1回 整数の計算 I たし算・ひき算

桁数の多い整数のたし算・ひき算の練習をしながら、徐々に数を作る問題や簡単な文章題などに取り組みます。あと、計算の決まりとして、かっこの中は先に計算するという事も学びます。よほど自信がある場合を除いて、筆算を書くようにしましょう。筆算はノートに端に小さく書くのではなく、堂々と真ん中に書きます。また、文章題については、まず式を書き、次に必要に応じて筆算を書きます。

① 例題と練習

例題はすべて動画が用意されています。

例題 1 純粋な整数の加減と、かっこの中は先に計算するという事を押さえましょう。

例題 2 整数の加減を利用した簡単な文章題に取り組んでみましょう。

例題 3 カードを並べて数を作る問題です。数の大小を決めるのは大きい桁の数であることを理解します。

例題 4 例題 2 よりももう少し複雑な文章題に挑戦します。(計算は例題 2 よりも簡単になっています。)

各例題の動画を見て理解したら、必ず練習に自力で取り組み、答え合わせをし、間違っていたら、どこで間違ったかをよく確認して、再度解き直しをするということを徹底してください。わかりにくくなった場合は、再度例題の動画を見てみましょう。

② 復習問題

復習問題は、基本的に例題・練習とほぼ同じタイプの問題が並んでいますので、例題と練習をすべて済ませた後、取り組んでもらいたい宿題としています。

①と②が例題 1 の、③と④が例題 2 の、⑤と⑥が例題 3 の、⑦と⑧が例題 4 のそれぞれ改題になっています。

解いたあと答え合わせをして、間違っていたら間違ったところを確認して再度解き直すというのは、練習と同じです。難しく感じる場合は、対応する例題の動画を参考にしてください。

③ 練成問題

練成問題も、解説動画がすべて用意されています。

- 1 登場するのが3人になるので、大小関係を線分図などで整理しましょう。
- 2 全部カードがそろっていたら和がいくらになるかを考えます。
- 3 学年と性別という2つの軸で簡単に整理しなければなりません。例題4の要素になります。
- 4 (1)計算するだけの問題です。(2)題意が意外とつかみにくいかもしれません。集合の考え方につながります。
- 5 (1)軽い順に並べるなどの整理が必要になります。(2)練成問題2の考え方で、選ばない2つの石に注目して考えます。
- 6 まず、表の意味を理解しなければいけません。次に、6個出ている和の中で、内訳のわかりやすいところから注目していきます。
- 7 例題3に似ています。

練成問題については、すべて解説動画がありますので、動画を見て理解したうえで、もう一度自分で解いてみることをお勧めします。

今回の練成問題で特に必ず押さえておいていただきたい問題は、1, 2, 3, 4となります。

◆第2回 整数の計算Ⅱ 1けたのかけ算

基本的に2けた×1けたという整数のかけ算を扱います。必ず筆算を書くことを徹底してください。九九を2回行うこととなりますが、2けたの数の一の位の数に1けたの数をかけた積の十の位の数は繰り上がりになるので、小さく書いておくことを身につけてください。また、文章題においては、式を書くことも徹底してください。

① 例題と練習

例題はすべて動画が用意されています。

例題1 純粋に2けた×1けたの計算になります。ここでしっかりとかけ算の筆算の作り方をマスターしましょう。

例題2 2けた×1けたの整数のかけ算を利用する、簡単な文章題になります。この先、速さや単位あたりの量の考え方につながるものや、簡単な単位変換に関するものも含まれています。

例題3 表数列に関する問題です。しかし、今回は、一番下の行が単純に九九で求められるということを使って考えていきます。

例題4 題意が少し複雑なので、各月の貯金額を書き並べていくという操作を大切にしましょう。

各例題の動画を見て理解したら、必ず練習に自力で取り組んで、答え合わせをし、間違っていたら、どこで間違ったかをよく確認して、再度解き直しをするということを徹底してください。わかりにくくなった場合は、再度例題の動画を見てみましょう。

② 復習問題

復習問題は、基本的に例題・練習とほぼ同じタイプの問題が並んでいますので、例題と練習をすべて済ませた後、取り組んでもらいたい宿題としています。

①と②が例題 1 の、③と④が例題 2 の、⑤が例題 3 の、⑥が例題 4 のそれぞれ改題になっています。

解いたあと答え合わせをして、間違っていたら間違ったところを確認して再度解き直すというのは、練習と同じです。難しく感じる場合は、対応する例題の動画を参考にしてください。

③ 練成問題

練成問題も、解説動画がすべて用意されています。

① 例題 2 とほぼ同等の問題になりますが、少しだけ複雑化されています。

② 規則性に関する問題といえますが、このくらいの数の場合は、すべて書いてしまって数えたほうが速いとも言えます。

③ 例題 3 に関する問題ですが、数の並べ方がかなり難しく、戸惑うと思います。行番号と列番号が等しい数はたまたま平方数になりますが、どちらかという、1 行の数の規則性から考えるほうが一般的であるといえます。

④ (1)規則性の問題になりますが、各グループの中の 3 番目の数に注目すると難しくありません。(2)題意がつかめれば極めてやさしい問題です。

⑤ (1)単純に人数を加えるだけの問題ですが、(2)へのつながりを考えると、まず、各点数ごとの男女の人数の和を求めて書いて、その和を求めるとよいでしょう。

(2)(1)で点数ごとの人数を書いておくと、さらに、各点数ごとの点数の和をかけ算で求めて表の上下どちらかに書き並べ、それを加えるとやりやすいでしょう。難しい問題ではありませんが、一種の処理能力を見る問題になります。

⑥ ⑤に通じる問題になります。

練成問題については、すべて解説動画がありますので、動画を見て理解したうえで、もう一度自分で解いてみることをお勧めします。

今回の練成問題で特に必ず押さえておいていただきたい問題は、①, ②, ④, ⑤となります。

◆第3回 整数の計算Ⅲ 整数の計算Ⅱ 1けたのわり算

基本的に2~4けた÷1けたという整数のわり算を扱います。加減乗算と同じく、必ず筆算を書くことを徹底してください。わり算においては、(商の見当をつけて、)かけ算をしてそれを引くという操作を続けていくことになります。そして、場合によっては余りが出ます。わり算ができるためには、加減乗算ができる必要がありますので、ある意味で計算のまとめともいえます。

① 例題と練習

例題はすべて動画が用意されています。

例題1 純粋に2~4けた÷1けたの計算になります。ここでしっかりとわり算の筆算の作り方をマスターしましょう。

例題2 2~4けた÷1けたの整数の、わり切れるわり算を利用する、簡単な文章題になります。一の位が0の整数のかけ算も出てきますが、この場合は0の部分をも右にずらして計算する方がいいでしょう。

例題3 わり切れないわり算を利用する、簡単な文章題になります。

例題4 わり切れないわり算で、余りがある場合、商を切り上げるタイプの文章題になります。わり算の結果として出てきた商と余りの意味をしっかりと理解することが重要です。

各例題の動画を見て理解したら、必ず練習に自力で取り組んで、答え合わせをし、間違っていたら、どこで間違ったかをよく確認して、再度解き直しをするということを徹底してください。わかりにくくなった場合は、再度例題の動画を見てみましょう。

② 復習問題

復習問題は、基本的に例題・練習とほぼ同じタイプの問題が並んでいますので、例題と練習をすべて済ませた後、取り組んでもらいたい宿題としています。

①と②が例題1の、③と④が例題2の、⑤と⑥が例題3の、⑦と⑧が例題4のそれぞれ改題になっています。

解いたあと答え合わせをして、間違っていたら間違ったところを確認して再度解き直すというのは、練習と同じです。難しく感じる場合は、対応する例題の動画を参考にしてください。

③ 練成問題

練成問題も、解説動画がすべて用意されています。

① 例題2とほぼ同等の問題になります。(2)は単位あたりの量の要素を含んでいます。

② 整数の操作に関する問題です。過去の灘中入試にも出題された題材です。ここでは、単純に操作を繰り返していただくにとどめていますが、操作の回数から元の数を求めるといったことも

いい研究材料になります。

③ 少し設定が複雑になり、分配算の要素を含んでいる問題になります。今回は、線分図で解く方法を身につけましょう。

④ ③に続いて分配算の要素を含んでいますが、③よりも数値設定が簡単になっています。

⑤ 数値設定は簡単なのですが、遠回りをしないという意味を理解してもらう必要があります。あと、速さの概念を導入しています。

⑥ グラフの読み取りと、簡単な足し算の絡む問題になります。(3)はわり算の問題ですが、広い意味での平均の概念にもつながります。

練成問題については、すべて解説動画がありますので、動画を見て理解したうえで、もう一度自分で解いてみることをお勧めします。

今回の練成問題で特に必ず押さえておいていただきたい問題は、①, ②, ④, ⑤, ⑥となります。